



## 会 議 録 (2)

### 議事の概要 (経過)・決定事項

1. 開 会 生涯学習課長 (14:00)
2. 委嘱状交付 今井教育長から交付 (新委員：相原貴弘 氏)
3. 会長の選出及び会長職務代理の指名  
委員の互選により、内沼 利泰委員が会長となった。  
会長職務代理は、会長から山川安代委員を指名。(山川委員は欠席のため、会長が後日、会長職務代理の指名について承諾を得た。)
3. あいさつ 内沼 利泰 会長
4. 議 事 議事進行 内沼会長
  - ①講演「ネット時代を生きる子どもたちのために」  
講師 埼玉県ネットアドバイザー 野々口眞由美 氏により資料及びパワーポイントを基に講演
  - ②情報交換  
各委員からの活動状況や青少年に関する現状報告等を行った。
5. そ の 他
6. 閉 会



発 言 者	発 言 内 容
講 師	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「いいね」が欲しい ⇒ それポイントになって使える。ユーチューブの投稿で広告収入が得られることから、演出が入った不適切動画も増えている。</li> <li>・今の子どもたちは、生まれた時からスマホがあるため、説明書が無くても使える。</li> <li>・バイトでの不適切な行動 ⇒ モラルの低下。時給が安くても以前はこういうことは無かった。</li> <li>・ネットの特性を理解していない。自分の事として考えられていない。削除できないことが実感とできない。</li> <li>・スマホ持込み可となったら、授業中の写真を投稿したり、先生のインスタグラムを探し出して、そこにある彼女の写真を拡散させたなどが起きた。</li> <li>・ネットが作り上げたもの、便利、娯楽、安心、お金</li> <li>・子どもたちからも相談がある。⇒ 不適切動画ではないが、保護者も動画を投稿している。自分の子どもの写真、子どもの部活の試合の動画など。</li> <li>・常に誰かと繋がっている。誰でも発信できる。一億総カメラマン社会</li> <li>・有名なユーチューバーの投稿を700万人が見ているが、投稿している本人は見られている実感が無いという。</li> <li>・自分が楽しければ、面白ければどうでもいい。倫理観の低下がネットの中で起きている。</li> <li>・ネットの勉強をしてからスマホを持ったという人はほとんどいない。</li> <li>・成長期の子どもたちにとって重要なのは睡眠時間をしっかりとること ⇒ ネット依存になりにくくなる。機器を子どもに与えただけでなく、その後の子どもに関心を持つことが必要。</li> <li>・4月からフィルタリングがかかっていると「ライン」が使いなくなる ⇒ 「ライン」が使えるようにカスタマイズする必要がある。</li> <li>・スマホの遠隔操作で家の中のことができる ⇒ スマホで乗っ取られる可能性がある。</li> <li>・甲子園で準優勝校の球部員のブログに、酒を飲んだ、タバコを吸ったこ</li> </ul>

発言者	発言内容
講師	<p>とを書いたためネット上に拡散され、学校にたくさんの電話が来た。  ⇒ 高校名を変更することにまでなった。今でも削除できないで残っている。遊び半分でやったことの代償は大きかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ネットで起こした問題が、本人の将来にわたって影響が残る。就活や結婚など。ネットいじめが発覚して、会社の内定が取り消された。  どうなるのかという想像力が必要。</li> <li>・ 体験から相手の気持ちを考える。</li> <li>・ ネットは公共の場所 ⇒ 世界中が見ている。モラルが問われる場所。</li> <li>・ 中学3年生が、マンガ「ワンピース」をユーチューブに投稿した。著作権法違反で逮捕され、損害賠償20億円を請求された  ⇒ 親の社会的責任</li> </ul> <p>*いじめ・悪口</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2017年の神奈川県内での大人の職場内いじめ認知件数  17,685件</li> <li>・ 2016年 全国の子どものいじめの認知件数 32万件</li> <li>・ 2017年 年間の子どもの自殺件数が最多となった。若者が三日に一人が自殺する国となった。</li> <li>・ 相手がいやがることは言わないやらない。友達と<u>遊</u>んでいるのか、友達で<u>遊</u>んでいるのか。この違いは大きい。</li> <li>・ どんな言葉でも言えてしまう。いじめが起きやすい。文字として残るから深く傷つく。</li> </ul> <p>*ネットでの出会いによるトラブル・性犯罪</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ネットで知り合った人には会いに行ってもいいと思っている子が多い。</li> <li>・ ネットでの知り合いは友達と<u>思</u>ってしまう ⇒ なりすましがあがる。  小学生から標的になる。</li> <li>・ 発信した文章が個人を特定する。⇒ 発信を待っている人達がいる。  発信元は信用できるか、自分で確かめる。個人情報発信しない。</li> </ul> <p>*ネットの使用の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電話番号を覚えられない、コミュニケーション能力の低下、記憶力の低下、知識力の低下があるとされている。</li> </ul>

発言者	発 言 内 容
講 師	<p>*守られている子どもから自分を守る大人へ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2022年 18歳が成人</li> <li>・ 大人としての判断力や責任能力が18歳から求められるようになる。</li> <li>・ 自分を守るために必要な力が必要になる。実体験、知識が必要</li> </ul> <p>(講演終了)</p>
議 長 委 員	<p>以上で講演を終了します。質問はありますか。</p> <p>4月からフィルタリングにより「ライン」が使えなくなるが、他のものはどうなりますか。</p>
講 師	<p>今はアプリを使って良いかどうかを判断するエマという機構がありますが、3月で終わってしまいますので、「ティックトック」が該当するかどうかはわかりません。</p> <p>モラルにしても、子どもは体験が少ない状態ですので、子どものせいにしても解決しません。大人や地域が大問題につながらないようにどうセーフティネットを作るかが必要なことです。</p>
委 員	<p>大阪で小学生にスマホを持たせるということになったが、キッズ携帯ではダメなのでしょうか。</p>
講 師	<p>阪神淡路大震災が元で大阪はスマホを許可しました。この動きを受けて、文科省も保護者からの要求で動きました。東日本大震災の後、東北地方ではこういう動きがありませんでした。なぜスマホと言っているのかは分かりません。貧困問題もあって持ちたくても持てないという家庭もあり、子ども達にとって本当に良いことなのか分かりません。格差を生むことにもなるかと思えます。連絡がとれればスマホでなくても良いと思えます。</p>
議 長	<p>ほかに質問はありますか。無ければ以上で講演を終了します。</p> <p>(休 憩)</p>
議 長	<p>再開します。議事②の情報交換を行います。各委員から講演の感想、普段の活動等について発表をお願いします。</p>
委 員	<p>市のPTA連合会では、今年の夏にPTA会長、小中学校長とスマホについて話をしました。親と子の目線に差があります。自分たちが学ぶことが必</p>

発言者	発言内容
委員	<p>要だと感じました。こういう講座を積極的に活用したいと思います。</p> <p>スポーツ少年団では指導者、保護者からの暴力から子どもを守る規定がありませんでした。市のスポーツ少年団は子どもを守ることに力を注いでおり、市スポーツ少年団としての処罰規定を設けました。</p>
委員	<p>体験に基づいた想像力が必要だということがありました。正月に学校で餅つきを行いたいと思いましたが、ノロウイルスの心配で、学校での許可ができませんでしたので、学校以外で行い、200人程集りました。確かに問題が起きると大変ですが、あまりにも心配し過ぎだと思います。許容範囲をもう少し広く持てないものかと思います。</p>
委員	<p>加治地区健全育成の会では会報「わかば」を発行しました。講演会を毎年行っています。今年度は地元の中学校のホッケーの選手を招いて話を聞きました。</p>
委員	<p>南高麗小中学校でネットの講演会を行いました。</p>
委員	<p>吾野地区は4月から学校が統合されて奥武蔵創造学園となります。青少年健全育成についても今後どうしていくかという課題があり、東吾野地区と連携して行っています。</p>
委員	<p>東吾野地区の健全育成は地区内を5支部に分けていますが、1支部で子どもが1～2名しかいない支部があり、支部毎では成り立たなくなっていますので、健全育成のあり方を考える準備を始めることとなっています。</p>
委員	<p>学校との連携を進めています。子ども食堂に力を入れ始めていますが、食事を出すことの問題点も多くあります。加治東地区では駿河台大学、飯能南高校の学生が手伝いに来てくれますので子どもたちは喜んでます。美杉台では子どもの朝の登校の見守りを行っています。美杉台小の児童が増えて4クラスになったため、見守りエリアが広がってきたので見守りを強化したいと思いますが、見守りに出てくれる大人が少ないので、大人の意識も変えたいと考えています。</p>
委員	<p>犯罪件数は減っています。犯罪を犯した後の更生に携ることが減っています。東吾野では10年ほど何も無い状況です。吾野は中学校でネットいじめがありました。奥武蔵創造学園で子どもたちにタブレットを持たせるといことですが、問題が起きないかと心配しています。</p>

発言者	発言内容
委員	<p>タブレットが次年度学校に入る予定です。校内では持ち出し禁止で利用制限があるので心配はありません。現在学校では不良というのがいません。今は全体的に落ち着いていて、大きな問題は減っています。薬剤、携帯電話、スマホに関わる教育は必要だと思います。</p>
委員	<p>行事写真をSNSにアップするのは控えてもらいたいという貼り紙をしています。時には、写っている人全員に承諾を得て載せないと犯罪になると教えています。</p> <p>担任と生徒のやりとり帳という交換日記があり毎日行っています。「ライン」にこう書かれていたなどの報告もあるので、そこで指導して、問題が大きくならないようにしています。</p>
委員	<p>小学生の6割は携帯電話を持っています。どこの学校でも携帯・スマホの教室は行っていると思います。携帯については保護者ともタイアップして保護者にも啓発を行っています。行きつくところは心の問題ですので、家庭や地域の連携が必要だと思います。</p>
委員	<p>少年非行に関する補導件数で、全国的に保護司への依頼件数は減っています。飯能署管内は－40%程度下がっています。非行少年と話をしてみると学校で暴れる昔ながらの不良はいなくなりました。管内の学校では落ち着いています。</p> <p>小中学校では一人ずつケアしています。朝登校してこない子どもには、迎えに行ったり、夕方家庭訪問してその日の学習のレクチャーを行ったりしています。駿河台大学の学生ボランティアにも協力をしてもらい街頭補導を行っています。</p> <p>大阪がスマホを小学生に持たせることになりましたが、一つの要因としては「ライン」は既読というのが付くので、見たかどうか分かるということ、「ライン」は電話回線ではなくインターネット回線なので、災害の時に使えなくなることはないなどです。ガラケーでもスマホの機能は使えるので、経済的なことを考えるとどうしてスマホなのかとも思います。</p>
委員	<p>今回の講演の内容は、小中学校では4～5回に分けて行わないと子どもたちは具体的に想像ができなと感じました。少年の犯罪が減っているのは気になっていて、青年期にはあ反抗したり暴れるのは当然で、もやもやの解消</p>

